

『乳がん学習会』を開催しました

八戸地域
福祉委員会



10月21日（金）るいけ店2階において、乳がん共済保障について学習会を開催しました。

コープ保険センターの澤田さんを講師に、乳がんの保障について学習しました。澤田さんは「普段の生活の中で、触診や健康診断を大切にし、早期発見が大事ですよ」とおっしゃっていました。また、最新の治療や診療の事など、難しい話も丁寧に分かりやすく説明いただき、質問にも的確に答えて頂きました。他にも、乳がんの触診キットで触診を体験しました。

福祉委員会は、健康の大切さを参加者にお知らせするため、体組成測定を実施し、少しでも健康に意識してもらえるよう取り組みました。参加していただいた組合員のみなさん、ありがとうございます。これからも、地域の組合員のプラスになる企画を実施したいと思っています。

トピックス

トピックスでは、この間の行われた取り組みの一部を掲載しています。組合員活動についての最新情報や取り組みはホームページもご覧ください。



第3回くらしと防災セミナー

五所川原地域
くらしと防災委員会



9月22日（木）五所川原市民学習情報センターにおいて五所川原地域くらしと防災委員会主催の「第3回くらしと防災セミナー」が開催されました。

宅配カタログの「びいんず」に掲載されていた「防災バッグ30」の商品を検証しました。携帯用トイレの使い方・アルミブランケットのサイズ感・ポリ袋を切って簡易ベストにした時のサイズ感などを紹介し、防災バックに入っている商品を全て手に取って検証してみました。事前に試してみることで、使用方法も理解できて防災バッグを購入しただけで安心してはいけなことを伝えました。

2022年8月9日の大雨被害による
産直産地へのお見舞いについて
産直兼供給企画担当 川端真理子

2022年8月9日からの大雨により、田んぼ・畑の浸水や冠水、土砂の流入により農作物へ大きな被害を受けた産直基本協定を締結している青森県内の産直産地、「農事組合法人 舩作興農組合」、「有限会社さとう農園」、「有限会社ケイホットライス」の生産者の皆さまに対して、2022年9月28日と10月3日に、コープあおもり商品企画課の産直兼供給企画担当 川端、農産部門商務鶴谷、県別商品部門商務倉内が現地を訪問し、被害に遭われた状況などの説明を受け、お見舞い金をお渡ししてきましたので報告いたします。

かぼちゃの収穫量が減少するという説明を受けました。実際に被害に遭ったかぼちゃ畑を見ましたが、畑が冠水し、かぼちゃは平年から収穫量が70%減少する見通しがされています。また、メロンを植えるビニールハウスは支柱が泥に浸かり固着してしまい、片付けにご苦労されたそうです。畑への冠水の影響から農作物の品質が不安定な状況でしたが、生協への納品量は確保し、欠品がでないようにご尽力いただきました。



水に浸かり割れてしまったメロン。収穫間近でした。

農事組合法人
舩作興農組合（深浦町）

9月28日（水）にお伺いし、新岡重光組合長とお会いしました。

被害状況

大雨により、植えた「ふかうら雪人」が流失したことから、植えなおしたため、時期が遅くなりました。そのため収穫量は掘ってみるまで分からないそうです。他の農産物も被害を受けましたが、曲がってしまった大根を漬物など加工品として出荷できるかの検討、それ以外で被害を受けた野菜

有限会社
さとう農園（つがる市）
9月28日（水）にお伺いし、佐藤史成代表取締役とお会いしました。
被害状況
大雨の被害により、メロン、すいか、



新岡重光組合長と川端

を堆肥にするなど、次年度の畑の土づくりには活かされればと災害に負けないという新岡組合長から力強いお言葉をいただきました。

有限会社
ケイホットライス（中泊町）

10月3日（月）にお伺いし、船水雅子取締役とお会いしました。

被害状況

冠水した圃場を見せていただきました。稲穂は水に浸かっってしまうと成長が妨げられるため、稲刈りの時期にも関わらず、まだ穂には緑色の部分が目立ち、手に取ってみると実が入っていないことがすぐにわかる状態でした。被害としては、収穫量の20%減ぐらいで済むのではないかとのお話でした。大豆は、畑の冠水により作付けした約75%が枯れて失われてしまうということでした。



川端と船水雅子取締役